

## 高校生の部 nittoKAI 特別賞

### 「広がる世界、知る世界」

埼玉県立浦和第一女子高等学校 1年 磯上潤奈

あの日、私の人生は新たな幕を開けた。「この世界に絶対に立ち続ける。」そうボスポラス海峡で誓った。

私は第二回中高生のための作文・絵画コンテストで最優秀賞を受賞してトルコを旅した。それから、私は変わった。日本ではできない貴重で衝撃的な体験。トルコ語も分からずノリと身振り手振りでトルコ人と仲良くなったこと。そして、参加メンバーから受けた刺激。それまで私はごく普通の中学生だった。部活、勉強、遊び、行事……。そのサイクルで日々は過ぎていた。けれども、研修旅行に参加して知った。「海外派遣に参加して同世代の仲間達から大きな刺激を受け、海外で様々な経験を積むことの楽しさ」を。その濃密な時間を通して自分が成長できたことに心が躍った。「もっと自分の知らない世界に足を踏み入れたい。」そう思った私はさいたま市国際交流事業、奥井ノ上記念日本青少年国連視察団、日韓高校生交流キャンプ等に参加し、国際交流活動にも多数参加してきた。特に奥井ノ上記念日本青少年国連視察団では大きな志を持った仲間達に恵まれて自分の未熟さを知り、これからの目標や新たな夢が生まれた。さらに多くの海外派遣や国際交流活動に携われるように様々な講義に参加したり、マスメディアや SNS を通して学んだりして自分のスキルを上げることに奮闘している。そのインプットの過程も至福のひとつきだ。「ただ行った、経験しただけで終わらせないこと。」この必要性も海外派遣を通して学んだ。

「私にとって海外派遣や国際交流活動はなんだろうか。」それは「自分の世界や視野を広げ、新たな自分に生まれ変わっていく場」だ。まだ見ぬ世界を新たに見て、知って満たされる好奇心。現地の人と言葉も分からず身振り手振りで会話するわくわく感。何十歩も前を歩く仲間と過ごし、様々なものを吸収する時間。自分の物差しの小ささで突き付けられる未熟さ。それを基にしたこれからの自分への課題。勿論、海外派遣に参加することは楽しいことばかりではない。慣れない環境に苦勞することだってある。しかし、あまりのやりがいに時を忘れてしまう。楽しいことも苦勞もその過程一つ一つに幸せを感じるのだ。

私は将来、世界で活躍する外交官か国連職員になりたい。世界各国の人達と協力して仕事を行っていききたいのだ。無論、そこには沢山の苦勞が待っているだろう。だが、それ以上に世界各国の人々で行う仕事は刺激的かつ驚きの連続であるに違いない。そんなやりがいと好奇心に満たされた仕事がしたい。そこに私はきっと最高の幸せを感じるであろう。

「知る」って面白い。他の仲間の実績は眩しすぎる。でも、高い志を持った仲間と同じ場に立ち、輝きたい。まだ見ぬ世界は遥か彼方まで広がっている。その全てを知り尽くしたい。それが私の一番の幸せだから……。